

学 園 彙 報

『昭和五十二年度』

◎日本印度学仏教学会学術大会

七月十一日・十二日の両日にわたり、東京世田谷の日本大学において、第二十八回学術研究発表大会が開かれた。十の部会にわかれ全国各地から集った研究者により熱心な発表がおこなわれ、盛会であった。本学からの研究発表者は、次の通りであった。

阿仏房について

上 川 木 昌

◎日本仏教学会学術大会

五十二年度の学術大会は、「仏教儀礼Ⅱその理念と実践Ⅱ」を共通課題として、九月十日・十一日の両日にわたり、立正大学を会場として開催された。二部会にわかれ三十名の代表発表者が、共通課題に添って、成果を述べた。本学からの研究発表者は、次の通りであった。

身延山の年中行事について

林 是 普

◎日蓮宗教学研究発表大会

日蓮宗・立正大学・身延山短期大学の三者共同主催による日蓮宗教学研究発表大会は、十月二十一日・二十二

日の両日にわたり、立正大学が当番で、宗務院を会場に開催された。今回は第三十回大会ということで、一日目の午後から茂田井・宮崎二教授による特別発表もあった。本学からの研究発表者は、次の通りである。

一、被接について

若 杉 見 龍

一、「日眼女釈迦仏供養事」考

上 田 本 昌

◎学内研究会

昭和五十二年度も前年度に引き続き、学内の月例研究会を開催し、それぞれ専門の立場から日頃の研究成果の発表があった。

○第十一回——四月二十三日

般若経における「信」について

教 授

望 月 海 淑

☆先ず般若経の成立から始り、「八千頌般若」が古く広い範囲で読まれたことを述べ、宇井・干潟・梶山・平川の各教授の説を紹介した。「信」については、シュラッターとアジエモクテーとブラサーダーの三つについて論じ、「以信代慧」にまで及んだ。

○第十二回——五月二十七日

宗政に関するアンケート調査について

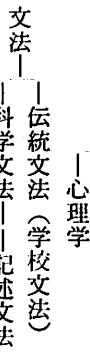
教授 秋山 智孝

☆宗会議員の立場から、顕心会の広報委員会が中心となつて実施した宗政に関するアンケートの集計を発表した。全国寺院教会結社の10%を無作為に抽出して回答を求めたもので、(一)信行道場、(二)遠忌について、(三)会派についての三項目にわたり、詳細なアンケート調査報告があつた。

○第十三回——六月二十日
英語教育の展開

教授 大森 孝

☆語学的な面——言語学——語学教育——文法に従う。



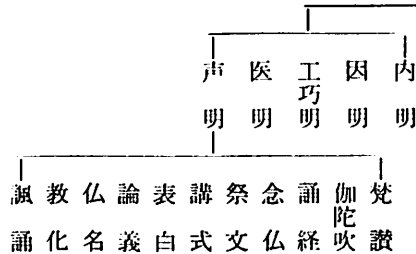
変換生成(再配列・結合)

ラテン語を基として英文法が作られた。サンスク
リット語・ラテン語等は歴史的に共通なものから
生れた。

○第十四回——七月十一日
声明について

教授 長谷川 寛 慶

☆五明……基本



魚山流——叡山——大原流

身延流

高野

日朝以来大原流を学ぶ。
心性遠師が大成者である。

(遠師本——最古)

○第十五回——九月二十二日
室町期における近衛家と本満寺

教諭 前刀 延尚

☆室町期に至って京都二十一か本山の成立を觀たが公家達の中にも日蓮宗を信奉する者も多くなつた。殊に近衛家は顯著で、妙顯寺二世大覚や本満寺の開祖日秀について、近衛家との係りを論究した。又本満寺の創建年代・建立地及び政治家・尚道等の本満寺參詣數等を参考にしながら論を進めた。

○第十六回——十月二十八日

マヌ法典における階級制度について

教授 町田 是正

☆古代インドではバルナ（色の意味）で人間の區別を行った。同族の中でも職業によって区別された。ジャーティ（生れ）によって身分制度がきめられた。マヌ法典は十二章二、六八四条からできている。その中に身分法（カースト法）があり、結婚は同階級の者同志でなくてはならないが、これを亂した者を「雜種」と云い失権者として扱われる。この失権者の中の逆生（男下階位・女上階位）の六種の中に旃陀羅がある。

（詳細は本誌43頁を参照）

○第十七回——十一月十一日

身延山の年中行事について

講師 林 是晋

☆身延山内の年中における諸行事について、宗祖在世当時の大師講を始め、三月十八日の立正会、一月十三日の御頭講会等その他の行事について紹介した。二十四世日要、三十一世日脱、及び明治に入ってからの日鑑等の諸師の『年中行事』を参考にしながら、毎月の行事についても論究を行った。即ち、一日（延寿院の命日）三日（日向師の命日・三日講）十三日（宗祖命日）十五日（釈尊涅槃日）二十五日（波木井氏命日）但し、いつ頃から始められていったかについては、まだ研究の余地が残されている。

○第十八回——十二月二日

邪馬台国考

教授 堀 一男

☆「邪馬台国」については、古來異説も多く、邪馬台国・邪馬嘉国・耶馬台国ともいわれており、『魏志倭人伝』には、興味ある記述が見られる。西晋陳寿（二三三～二九七）によってつくられた魏志

倭人伝の原文を読みながら、当時の邪馬台国の模様をさぐった。

○第十九回——一月二十日

老人社会学への提起

教 論 長谷川 寛 勝

☆現代社会の老齢化にともない、「老人」をとりまく社会集団（家族集団を始め、職場・近隣・任意の各集団、或いは信仰集団をも含めて）に於て、いかにとりあげて行くべきか「老人社会学」への問題提起がなされた。

学 園 だ よ り

山梨県私学教育研修大会

五十二年度の山梨県私学教育研修会は、八月二十二日・二十三日の二日間にわたり、身延山学園を会場として盛大に開催された。この研修大会は、山梨県下の私立学校教職員の研究大会であり、加盟各校より二三〇名の参加者があった。開会式のあと、「考古学と歴史教育」という論題で、立正大学の坂詰秀一助教授の講演があり、八部会にわかれて研究発表と討議がおこなわれた。本学



関係の研究発表者は次の通りであった。

一、日本文学に現れた仏教思想

上田 本昌

一、身延山における宮沢賢治の歌碑について

望月 海淑

一、わが校における英語教育の現状と問題点

奥野 本洋

公開講演会

十一月二十五日午後一時より、本学において公開講演会が開かれた。講師は立正大学教授・法華経文化研究所々長の中村瑞隆先生を迎え、『カピラ城発掘について』というテーマで、同教授がインドへ出かけ永年にわたり実際に手がけてこられた発掘の状況や、カピラ城発掘の意義などについて、二時間に及んだ講演であった。

現地を撮してこられたスライドを上映しながら、インド側のいうカピラ城跡と、ネパールと中村教授の側が発掘したカピラ城跡とでは、相違のある点を指適し、今後の調査研究に期待をかけている旨の内容であった。

講演会終了後、中村教授を囲んで、『梵文法華経写真集成』（全15巻）の刊行に関する苦心談など約一時間にわたり、本学教職員との懇談会が開かれ、有意義の中に

終了した。

尚、中村教授は本学の出身者であり、同窓生の一員として、在学当時のなつかしい話にも、しばし華がさいた。

本誌『棲神』の復刻版を刊行

『棲神』は身延山学園の機関誌として、大正二年十月に創刊号を出して以来、本号で第五十号を数えるに至っている。太平洋戦争中に一時休刊したが、昭和二十八年九月に復刊し今日に及び、「年刊」のかたちで刊行されている。創刊の当初は同窓会が中心となつて、学生の手で編集され、騰写版刷りの和綴であったが、次第に教授陣の研究論文発表の機関誌となり、幾多の學術論文が掲載され、斯学の発展振興に寄与するところ大なるものがあつた。

しかし、創刊号を始め、『棲神』の各号は現在ほとんど入手困難であり、大学図書館でさえも、全巻揃つて見ることとはできない状態であつた。この程、東京の大東出版社から、復刻版を刊行することになった。

同窓生を始め関係者からは、待望の復刻版発行に大きな期待がよせられている。今回は創刊号から第四十二号までを復刻し、全十巻に収めている。定価は各巻七千円。

『本尊論資料』復刻版の刊行

本学出版部に於て明治四十二年に発行された『本尊論資料』は、宗学の関係者から貴重な資料として、好評を博していたが、惜しくも絶版となり、現今では入手が全く不可能となっていた。各方面から復刻の強い要請があり、この度、京都の臨川書店から、復刻刊行される運びとなった。

『本尊論資料』は、昭和十六年に再版が出たが、限定少量出版のため、間もなく不足となって、本尊論に関する研究を進めようとする者にとっては、永い間不便をかけた。 (定価七千円)

今回の復刻刊行は、それだけに朗報であり、宗門内外の関係者からも刊行が待たれている。

第五回身延町内一周駅伝大会に優勝

昭和五十三年二月十一日(建国の日)に、身延町体育協会と、「健康づくり身延町推進協議会」との共同主催で、第五回駅伝大会が開かれた。

本学からも昨年に続いて、「身延山学園A」「同B」の二チームが出場した。昨年はAチームが、町内会別・職場団体別を通じて、初優勝の快挙をとげたが、今回は

Bチームが職場団体の部で初優勝をとげた。午前十時半に豊岡小学校滑子分校をスタートとし、大野⇨帯金⇨八木沢⇨下山中学⇨杉山⇨一里松⇨身延山久遠寺を通過して役場がゴール。全二十三・五キロであった。記録は次の通りである。

◎職場団体の部優勝⇨「身延山学園Bチーム」。

時間一時間三一分一五秒。

尚今回は町内会別の部は三四チームが参加し、優勝は元町チーム(一時間二六分二六秒)であった。職場団体の部は九チームが参加して実施された。身延山学園では高校と大学生によって選手が組織され、前回のAチームに続き、今回はBチームが勝って、二年連続で優勝旗を学園にもたらすことができた。

☆ ☆ — お 願 い —

◎本誌は「会員制」となっております。会費は年額二千五百円です。発行のつど同封の振替用紙をご利用の上、ご送金願います。

◎お知り合いの方々の中で、まだ入会されていない方にはぜひ御入会下さるようお勧め下さい。よろしくご協力の程、お願い申し上げます。